



RITSびわ湖

創刊号

発行日
2007年3月1日

編集発行
立命館守山高等学校
早苗会

事務局
滋賀県守山市勝部3丁目9番1号
TEL:077-582-8000
FAX:077-582-8038

同窓生の輪を広げ、絆を深める

早苗会発足して55年、その歴史は長く、これまでにたくさんの同窓生が守山市立守山女子高等学校を巣立っています。そこで、滋賀県内外で活躍している同窓生の皆さんの絆を深め、今後巣立っていかれる立命館守山高等学校の卒業生をしっかり受け止められる基盤づくりをしようということで、「Rits びわ湖」の発刊に至りました。

早苗会の発展のために



早苗会 会長 前田 啓好

立命館守山高校早苗会となり、始動する時が参りました。何から手を付ければいいのか迷っている時、9月2日に立命館付属校同窓会協議会（清和会、鳳凰会、慶祥会、早苗会の4校）を北海道の慶祥高校で聞いて下さり、気さくに、暖かくやさしく包み込んでご指導いただき、頑張らなければと心新たに帰って参りました。

早苗会をより活発に活動するために今の常任幹事の他、各年代から数人ずつ選ばせて頂きました。会則、広報、事業の検討等問題は山積していますが、新たな常任幹事さんたちと、早苗会の更なる発展の為に新たな船出をいたしました。「地域に学び、世界へ発信する」というコンセプトを持つ立命館守山高校の発展に貢献出来るよう、力を尽くしてまいります。



世代間のつながりを大切に



早苗会 名誉会長

(立命館守山高等学校 校長) 小島 敏夫

早苗会の皆様には益々ご健勝にご活躍のことと存じます。

このたびは、早苗会の発足55周年を迎えられるとともに広報誌

「Rits びわ湖」のご創刊、誠におめでとうございます。

守山市立守山女子高等学校から立命館守山高等学校へ移管されてもうすぐ1年が経過しますがこの間、早苗会の皆様には本校教育活動や地域活動へ様々なご支援やご援助をいただいております。お蔭様で、本校は高い学校文化の中で質の高い教育水準・豊かな経験を提供し、社会力を育む特色ある中等教育を展開してまいりました。本年4月には立命館守山中学校も開校し、「人間力」の基礎をたくましく育てる中高大(院)一貫教育もはじまります。

これからも早苗会の皆様方には、世代間のつながりを重視し、会員の皆様相互の親睦と扶助に寄与されるとともに、「地域に学び、世界に発信する」する立命館守山中学・高等学校へのあたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

ご卒業おめでとうございます

早苗会 顧問

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。移管のため幾多の問題に直面し、心の重い長く辛い日々の連続だったと思います。でもその苦しみは、今大きな喜びとなり信念を持った、強くやさしい、キラリ輝く女性へと成長されたことと思います。

貴女たちは、素晴らしい二つの体験をされました。一つは、伝統ある守山女子高校に入学し、最高の学び舎で美を追求され、礼節を持って生まれ

村松 経子

ました。二つ目は、男女共学の学校生活を体験され、お互いを思いやる心や感謝の心など、人間として大きく成長されました。そして立命館守山高校第一回の卒業生として巣立られます。

これからは、後輩の道しるべとなりますよう、それぞれの進路に向かって大きく羽ばたいて下さい。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

守山女子高校の思い出 「卒業生は守山女子」



中島 千代 (元守山女子高等学校教員)

田圃で働いていたとき

戦後食糧難のため教員生活をやめて、田圃で働いていたため、知人が学校に勤めないかと進めてくださり、守山町立守山高等裁縫女学校に昭和28年に奉職。その時の校長が幸いにも向井和一郎氏で実家の近くの人だったので、心強く感じました。

昭和34年に県知事、守山町長、県会議員、県教育長が文部省に嘆願され念願の高校設置の認可がくだり、守山女子高等学校と改名されました。勢いにのった学校は生徒329名の志願者となり、県下でも公立学校として有名になりました。

本館焼失後の市民の温かい応援が



昭和37年10月12日午後7時30分ごろ、玄関の2階洋裁室より出火の連絡が入り、帰宅したところでありましたが、急いで折り返しました。本館校舎は焼け落ちていました。原因はアイロンの不始末とのこと、その後、学校の存続が危ぶまれましたが、PTA、後援会、同窓会、学校関係各方面のご協力によって、昭和39年2月に本館が再建されました。同年11月校舎改築促進委員会が

昭和37年10月12日午後7時30分ごろ、玄関の2階洋裁室より出火の連絡が入り、帰宅したところでありましたが、急いで折り返しました。本館校舎は焼け落ちていました。原因はアイロンの不始末とのこと、その後、学校の存続が危ぶまれましたが、PTA、後援会、同窓会、学校関係各方面のご協力によって、昭和39年2月に本館が再建されました。同年11月校舎改築促進委員会が

設立され、南北の校舎は老朽化がはなはだしく、改築のために私は会計係として、守山市の自治会長宅などを訪問し、後援会入会と会費を納めていただきました。皆様の女子高校を応援してくださる温かい心に感謝し、その時の辛い心も消されました。その後湯木満寿美校長は出火の責任を負われて、退職願いを出されたので、私は市長に面会し許しをもらいましたが、校長はご自分から退職されました。



国鉄守山駅から感謝状

昭和41年7月29日、和歌山県下津町立下津高等学校へ家庭クラブ員を引率して訪問、姉妹校としての契約を結び、楽しく下津高校の生徒たちと交流することができ、再会を誓いました。

昭和42年8月全国高等学校家庭クラブ研究会が札幌で開催されるので、出席の要請が県立高校からあり、当時国鉄だった守山駅から生徒を引率して北海道に向かいました。この研究会を契機に、家庭クラブ員は、いつのまにか守山駅の掃除を登校するまでに済ませるようになりました。昭和43年国鉄守山駅より環境美化活動に対して、感謝状が

ハンドボール部 OG (NTF 立命館守山) を紹介します。



現在部員15名。チームは、学生、社会人、主婦で構成されています。毎年、国体出場を目標に、練習は週2回、夜間時を過ぎるのを忘れ、練習に励んでおられます。部員の方に「魅力は？」と尋ねたところ「年齢を忘れて運動ができる事がいいです」と声をそろえて言っておられました。試合については、年に6試合ほどあり、内1回は冬に室内にて試合が行われております。最近の試合状況については、近畿大会において3位、夏の県体では今年で6連覇と好成績を成し遂げておられます。勉強・労働・家事と頑張っておられる中で更に練習。気分転換？いやそれ以上のものを、楽しさの中に溢れんばかりのパワーを感じました。今後も練習に励み活躍される事を期待します。

高等学校の宝物」

贈られました。奉仕活動について北海道で習ってきた賜だと感じました。

群馬インターハイ

昭和44年インターハイにハンドボール部が県下を代表して出場、群馬県に付き添いとして行くように命を受けました。その時学校より預かった大金を安全のため旅館に預けたのはよいのですが、帰る時に忘れてしまい、車中で生徒の弁当が買えず私費で払うことにしたのを覚えています。旅館も気がつき郵送してくださいました。

就職開拓のため企業廻りに奔走

昭和46年4月1日より常勤講師となり、PTA後援会、同窓会、進路係に関わり、担任は引き続き受けました。

昭和28年以来進路係をした私は昭和54年までの長い間、各業界より求人に来てくださりました。採用された生徒たちが会社の意志に素直に聞いて、よく働いてくれるので、他校の生徒よりよいと感謝されました。私の後を継いで下さった先生からの話では、社会状態が肩下がりになっても求人を探していると聞き、嬉しく思ったものです。

日曜日にも各会社廻りをしたことを懐かしく思い出しますが、私が学校に勤めるようになってから私の子供は「お母さんは冷たくなった」といわれたくらいです。こうして働けたのも主人の両親のお蔭だと感謝しています。



昭和54年3月、常勤講師退職し、その後昭和61年4月に非常勤講師となり、書道教師となりました。これも同僚の先生の推挙があってこそ勤務させて戴いたものと感謝しています。平成元年3月31日をもち退職、70歳でした。守山女子高校勤務年数47年間の幕を閉じました。

教え子に話してきたこと

一つは心の扉を開き素直に教えを受けられる人になりなさい。閉ざされてはいくら教えてあげようと思っても聞き流しになってしまうもの。素直になって勉強しなさい。

二つ目は成せばなる、成さねばならぬ、何事もなさぬは人のなさぬなりけり、ということです。どんな困難なことに出会っても、これは良いこと、悪いことだとまず判断をしてやれば、必ず打開できるものです。くじけてはなりません。人に左右されてはいけません。死ぬ気でやれば何でもできるのだと思えば、知らず知らずのうちに自信を持つようになります。

卒業生の皆さんは、守山女子高等学校の宝物です。健康に留意して社会の為に活躍して戴きたいものです。



優勝しました!
2007年2月18日 滋賀県立体育館



早苗会入会に寄せて

平成18年度卒業生（学年幹事） 西田沙希恵

卒業するにあたって、私たち191名は早苗会に入会させていただきまます。55年という伝統ある早苗会は、旧守山女子高校の意志を受け継ぎ、何かを積極的にやろうという力に富んでいます。幸いにも、新キャンパスの中に、メモリアルルームができると聞いていますので、これまでに築き上げてこられた早苗会の歴史と伝統をそこに少しでも表現できるとよいと思っています。未熟な私たちですが、今後ともよろしく願います。

（生活総合科・平成18年度生徒会長）

輝いています。卒業生は今

酒井栄一先生の作品に魅せられて

昭和43年度卒業生 梅景 あい子

この度、守山市の都合により伝統ある守山女子高校を立命館が引き継いで経営を下さるになりました。お喜び申し上げます。

それにつけて創刊号を発行されるはこびになり、諸先輩の中から私の文章を掲載して下さるのは大変に光栄です。

守山女子高校にはいろいろなクラブ活動がありました。その中に日本刺繍とローケツ染めがあり、その時の講師は酒井栄一先生でした。先生は日展に出品されておられました。作品に私が魅せられて生涯学習の一端になると思ってクラブ活動に入りました。



梅景さんの作品、ローケツ染

熱情的な創作作品をつくられるので印象的に楽しく思いました。

今でも先生は県内公民館で日本刺繍と染色の指導をされておられます。

守山市も文化庁委嘱事業、伝統文化

継承として子どもに絞り染め・板染めの指導をして、未来の為文化

を自分の一芸として役立ってほしいと願っています。

子どもらは喜んでよい作品をつくりました。私は芸術作品の奥を知りたく、講座に出席するのを楽しみにしています。

私の作品は毎年守山市展入選をして、去年は特選をいただきました。又は、着物を染めたり、古着をリフォームしたりして身につけ、守山市観光ボランティアガイドに出かけ、皆様から喜んで下さいます。

これから立命館守山高校になるのですが、守山女子高校の伝統を大切にして、学校を続けていただきたいと思ひます。



恩師の酒井栄一先生（昭和40～54年在職）と一緒

友情の輪が絆に ～メモリアルイベント式典に恩師・卒業生11,000人～



守山女子高等学校の同窓会(早苗会)も立命館守山高校に移管することとなりました。記念に残る事業として「歴史・感謝・感動」をテーマに掲げ、2006年4月1日、11,000人の想いが集いあったメモリアル式典・コンサートを開催させていただきました。

当日は、ご来賓の方々、恩師や多くの同窓生の皆様がお集まりくださり、大盛況で終えることができました。ロビーや会場内のあちらこちらで、再会を喜び合う旧友の姿や、懐かしい思い出話に花が咲き、時が経つのも忘れ、友情の絆を深め合う輪が広がり、胸を熱

くしたことが昨日のように思い出されます。

イベントを開催するにあたりびわ湖放送様、移管対策室や関係者の皆様にはたいへんご尽力を賜り深く感謝申し上げます。また実行委員も心をひとつに合わせ早苗会の名に恥じることなく、大成功で終えることができました。皆様ほんとうにありがとうございました。今後とも、早苗会の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

メモリアル事業実行委員会一同



編集後記

この度、立命館守山高校早苗会の広報誌創刊号「Ritsubiwa湖」が発刊できました事、広報委員一同大変うれしく思っております。戸惑いながらの作業ではありましたが先生方や皆様方のご協力ももちまして無事発刊することができました。

さて、立命館守山高校は守山女子高校の古き伝統を受け継ぎ、地域に学び、世界に発信できる高校を目指しています。私たち早苗会も、日々学習に励んでいる生徒たちを応援しながら更なる研鑽を積み重ねたいと思ひます。

早苗会広報誌は皆様に親しみのある記事や情報をお知らせしたと考えております。また、ホームページも立ち上げておりますので、新しい情報などもご覧ください。今後ともよろしくお願いいたします。



広報委員一同